様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ９ 月　 ３ 日現在

機関番号：１６３０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2016～2019
課題番号：１６Ｋ０２６８１

研究課題名（和文）中国語方言学の領域における語源辞典編纂の試み―びん東区方言の身体名称語を例に

研究課題名（英文）Toward compilation of the etymological dictionary in the area of Chinese dialectology---taking body name words of Eastern Min dialects as an example

研究代表者
秋谷　裕幸（AKITANI, HIROYUKI）

愛媛大学・法文学部・教授

研究者番号：１０２６３９６４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,000,000円

研究成果の概要（和文）：(1)論文「編纂漢語方言比較詞典的設想―以《びん東区方言比較詞典》為例」において中国語方言語彙史の方法論的検討を行った。
(2)びん語びん東区方言群における身体名称語27語につき、その祖語を再構し、そこから現代びん東区方言への変化過程を跡づけた。
(3)寿寧、福安、屏南、福清4方言のデータを集成した著書『びん東四県市方言調査研究』を完成させた。中国上海市の上海教育出版社から出版される。

研究成果の学術的意義や社会的意義
語源辞典は言語の歴史的研究にとってきわめて重要であるにもかかわらず、中国語方言学の領域ではその編纂が試みられたことがなかった。本研究は研究上のこの空白部分を、びん東区方言群の身体名称語を例として埋めようとする試みである。４年間の研究期間中に、びん東区方言における計27語の身体名称語（頭；口；唇；舌；歯；ひげ；首；指；親指；小指；爪；腹；へそ；唾液；鼻；尻；肛門；胎盤；睾丸；陰嚢；女性器；目；目玉；涙；目やに；膝）の語彙史を構築した。本研究は、来たるべき、中国語方言語源辞典編纂の出発点となるとともに、comparative methodを用いた音韻史研究の中国語方言学における実践例ともなる。

研究成果の概要（英文）：(1)A methodological study of the Chinese dialects etymology was carried out in the thesis "A Preliminary Discussion on the Compilation of the Comparative Dictionary of Chinese Dialects: Examples from The Eastern Min Comparative Dictionary".
(2)The 27 words of human body parts words in Eastern Min dialects was reconstructed, and the processes of change to the modern Eastern Min were traced.
(3)I have completed a monograph that collects data from four dialects of Shouning, Fuan, Pingnan and Fuqing. It will be published by Shanghai Educational Publishing house.

研究分野：中国語方言学

キーワード：中国語　語彙史　音韻史　身体名称　祖語再構　びん語　びん東区方言

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

１．研究開始当初の背景

言語の歴史的研究を総括するひとつの形態に語源辞典(etymological dictionary)がある。語源辞典にも様々なタイプがあるが、本研究課題がいう語源辞典とは、現代諸方言における単語の意味と音声形式を比較方法(comparative method)によりさかのぼることができるもっとも古い形式から説明するタイプの語源辞典である。ほとんどの中国語方言には歴史文献資料が存在しないため、比較方法により各レベルの祖語を再構し、それを言語史の起点としなければならないからである。

中国語方言学の領域ではこれまでに語源辞典が編纂されたことがない。これは現代的な意味での中国語方言学、とりわけ音韻史が Bernhard Karlgren (1915-26) Études sur la phonologie chinoise に胚胎することに関係している。そこで Karlgren は中国語諸方言の音声データを中古音推定のために用いた。こと音韻史に関する限り、中国語方言学は現代諸方言と中古音の音類間の比較に終始する著しい傾向をもつが、その研究方法は Karlgren の Études に始まるのである。そこに“語(word)”の概念は入り込む余地がない。中国語方言に語源辞典が存在しないのはこのような理由による。

閩東区方言群を取り上げるのは、私がこれまで継続的にこの方言群の調査研究を進めてきたため、研究遂行が可能なレベルの方言データを蓄積していることによる。また身体名称語を取り上げるのは、語彙の重要カテゴリーであることと、閩東区方言群内部で比較的内部差異が少なく研究の難易度がそれほど高くないと当初予想していたことによる。（研究開始後、身体名称語の内部差異が当初の予想以上であることが認識された。）

２．研究の目的と意義

(1)目的

閩語閩東区方言群の身体名称 40 語を例に『閩語閩東区方言詞源詞典(身体部位部分)』（中国語で執筆）を編纂する。同時に中国語方言語源辞典編纂上の問題点についても検討する。本研究は中国語方言語源辞典編纂の出発点となる。

(2)意義

語源辞典は言語の歴史的研究にとってきわめて重要であるにもかかわらず、中国語方言学の領域では編纂が試みられたことがなかった。その語源辞典を閩東区方言群の身体名称語を例として編纂することにより、中国語方言学に新たな展開をもたらす。

インド・ヨーロッパ語族における Carl Darling Buck (1949) *A Dictionary of Selected Synonyms in the Principal Indo-European Languages* に比肩しうる語源辞典を中国語諸方言に関して作成することは歴史言語学的に有意義かつ必要不可欠であるし、また決して不可能でもないと私は考えている。

３．研究の方法

(1)フィールドワーク

当初の予定通り、閩東区方言群に属する寿寧方言、屏南方言、福清方言のフィールドワークを行ったが、その内容は中国語方言学の領域で一般的に用いられている方法である。まず『方言調査字表』（中国社会科学院）に基づき字音調査を行い、同音字表を作成するとともに音韻体系を帰納する。しかるのち語彙調査を行いつつ、同音字表の増補改訂を行う。最後に短い例文を用いて文法の調査を行う。

(2) comparative method

本研究においては、閩東区方言祖語における身体名称語各語の音形を再構する必要がある。１で述べたように、中国語方言の音韻史研究においては、伝統的な comparative method が用い

られることはほとんどない。しかし、「歴史比較法和層次分析法」（『語言学論叢』第四十五輯、秋谷裕幸、Zev Handel、2012 年）で詳述したように、中国語方言音韻史も comparative method を用いて研究することができるし、またそうすべきなのである。本研究では、comparative method を全面的に用いて各語の閩東区方言祖語における音形を推定した。

４．研究成果

(1)フィールドワークおよび調査報告

語彙史研究の基礎となる方言データ収集のため、福建省屏南県（2016-2017 年）、福建省福清市（2016-2017 年）、福建省寿寧県（2017 年）、福建省閩清県（2018-2019 年）におけるフィールドワークを行った。

本来の計画では方言データについては独立した著書とはせず、『閩語閩東区方言詞源詞典(身体部位部分)』の付録とする予定であった。ところが、言語データの分量が予想以上に大きくなったため、本研究課題以前に調査を終えていた福建省福安市方言と上記の寿寧、屏南、福清３方言、計４地点の調査報告を『閩東四県市方言調査研究』（中国語で執筆）としてまとめることにした。本書は 2020 年中の上海教育出版社（中国・上海市）からの出版が確定しており、2020 年 5 月 30 日時点で校正の最終段階にある。また本著書は、2020 年度上海市重点書籍に選定されている。

原稿段階での全体の分量は A4 で 415 頁である。

本書第３章では、取り扱った４方言のデータに基づき、６の閩東区方言史にまつわるテーマを論じた。そのうち、3.1 では｛もも｝（｛ ｝は語義）を意味する“腿”の主母音が*ɔ ではなく *ɑ であり、3.2 では｛め｝を意味する“目珠”の“目”が*mœk ではなく *muk が閩東区方言の祖語において再構されることを論じている。いずれも身体名称語の語彙史と密接な関係を有する。

本著書の完成により、すでにデータを公刊済みだった泰順、蒼南、杉洋、大橋、九都、咸村、虎貝、霞浦、斜灘、柘栄、福安の 11 方言に加え、寿寧、福安、屏南、福清４方言の計 15 地点のファーストハンドのデータを閩東区方言の身体名称語語彙史の研究に使うことができるようになった。

(2)『閩語閩東区方言詞源詞典(身体部位部分)』

当初の計画では、４年間の研究期間中に、閩語閩東区方言群の身体名称 40 語を例とする著書『閩語閩東区方言詞源詞典(身体部位部分)』(中国語で執筆)の初稿を完成させるはずであった。ところが結局、初稿の完成させることができなかった。

４年間の研究期間中に学術誌等に正式発表したのは以下 15 語であった：

頭；口；唇；舌；歯；ひげ；首；指；親指；小指；爪；腹；へそ；唾液；鼻

以下３語は学術誌等に正式に受理されている：

尻；肛門；胎盤

以下９語は学会等で既発表のもの：

男性器；睾丸；陰嚢；女性器；目；目玉；涙；目やに；膝

以上、計 27 語については初稿を完成させた。これらこそ、今次の科研費研究における中核部分である。以下、｛くび(neck)｝を論じた論文「閩東区方言的“脖子”義詞」(《語言研究》第 39 巻第 3 期）に基づき、本研究が行った閩東区方言身体名称語史の概要を提示したい。

まず、各地点（『班華字典』も含む。寧徳は寧徳方言祖語のこと）の語形をタイプ分けした上で列挙する。[ ]内が実際の音価。その前は音素表記。｛くび｝については以下のようになる。“小片”は下位方言群を意味する。

“脖子/neck”闽东*tau^{6}“脰”

(1)“脰管”

福州小片　**大**桥 tau^{6}-uŋ^{3}[ta^{55}uŋ^{52}]
福宁小片　**咸村** tau^{6}-øn^{3}[tau^{35}øn^{11}]；
福安 tau^{-}kuŋ^{3}[ta^{44}wuŋ^{42}]；
屏南 tau^{-}-uŋ^{3}[ta^{33}uŋ^{41}]；
杉洋 tau^{6}-uoŋ^{3}[tau^{44}uoŋ^{41}]；
宁德*tau^{6}-un^{3}；
《**班**华》tɑu^{6}kun^{3}

(2)“脰骨”

福州小片　**福州** tau^{6}kauʔ^{7}[ta^{52}auʔ^{24}]

(3)“脰领”

福宁小片　寿宁 tau^{6}liaŋ^{3}[tau^{44}liaŋ^{41}]

(4)“脰/头领”

浙江小片　**泰**顺 t^{h}au^{-}liaŋ^{3}[t^{h}au^{33}liaŋ^{455}]

(5)“头团”

浙江小片　苍**南** dɔ^{2}tɕĩ^{3}[dɔ^{11}tɕĩ^{35}]

(6)其他

福清小片　**福清** tau^{6}-uoʔ^{7}[tau^{22}uoʔ^{21}]
“脰□”
福清小片　**福清** tau^{6}-uoʔ^{7}kyŋ^{1}
[tau^{11}uoʔ^{4}kyŋ^{52}]“脰□**筋**”
福宁小片　**福安** tau^{-}(w)aŋ^{2}[ta^{44}waŋ^{221}]
“脰□”；
《**班**华》tɑu^{6}hɑng^{2}“脰□”

このあとに各語形の分析が続く。{くび}に関して論じたのは、主として以下６点であった。

(1)“脰**管**”**は主として北部方言福寧方言群に主に分布する。**

(2)“脰**管**”**における**“**管**”**の音形。**

(3)“脰**骨**”**は主として南部方言福州方言群に分布する。**

(4)**寿寧方言の**“脰领”**は元々｛えり｝を意味する単語だったが、それが｛くび｝を意味するようになった。中国語史においても｛えり｝から｛くび｝への意味変化がみられることにも触れた。**

(5)**泰順方言の**“脰/头领”[t^{h}au^{33}liaŋ^{455}]**の第一音節は**“脰”**と｛あたま｝を意味する**“头”**の混淆形式である。**

(6)蒼南方言“头团”**の**“头”**は周辺の呉語から取り入れた成分である。**

以上の分析に引き続き、閩東区方言祖語における｛くび｝を再構する。主たる問題は“脰**管**”**と**“脰**骨**”**の先後であるが、結論としては両者とも単音節の**“脰”**から生じた新しい語形であると判断した。根拠は主として以下５点。**

(1)閩北区方言等では単音節の“脰”**により｛くび｝を意味する。**

(2)古代文献においても“脰”**は単独で用いられている。**

(3)**中国語語彙史の一般的な傾向として単音節語の複音節語化が観察される。**

(4)多くの閩語方言においては二音節語“脰Ｘ”**により｛くび｝を表すが、方言間で**“Ｘ”**が**

ほとんど一致しない。このことは各方言における“X”が、各方言の分岐後にそれぞれの方言において付加されたことを意味する。

(5)閩東区方言において｛首をつる｝を“吊脰”という方言が観察されるが、ここでは“脰”が単独で｛くび｝を意味している。

以上から閩東区方言祖語においては単音節“脰”により｛くび｝を表していたと考えた。その音形は*tau^{6}と推定される。

引き続き、歴史文献における“脰”の用例を検討し、また“脰”と“頭(头)”が同源であるとの説、ベトナム語の祖語に推定される｛くび｝*k-dɔ:kが“脰”を借用したものであるとの説なども紹介している。

このような論述を、｛くび｝以外の26語についても行った。論文「閩東区方言的“脖子”義詞」の総字数は8,000字あまり。以上で紹介した本体部分は6,000字程度。27語で400字原稿用紙換算すると400枚ほどとなる。｛ゆび｝のように｛くび｝より語彙史が複雑な語がある一方、｛へそ｝のように簡単な語もあるので一概には言えないのであるが、単行本1冊程度の分量にはなっていると思う。

(3)中国語方言学の領域における語源辞典編纂の構想および方法論

2017年に公刊した論文「編纂漢語方言比較詞典的設想――以《閩東区方言比較詞典》為例」では、中国語方言学の領域における語源辞典編纂の構想および方法論を論じた。

4.2で紹介した｛くび｝の語彙史は、この論文の構想を概ね実現したものとなっている。

(4)研究の今後の展開

本研究は、当初、その目的を中国語で執筆する『閩語閩東区方言詞源詞典(身体部位部分)』（閩語閩東区方言語源辞典(身体部位)）の編纂においていた。そしてその目的達成をめざし、27語の身体名称語の語彙史を構築した。そこで明らかになったのは、各語の歴史が予想以上に複雑であり、辞典のスタイルでは分量的に説明がとてもおさまりきらないということである。｛手(肩から指先まで)｝のように、全方言で“手”と言い、祖語における音形も何ら問題なく*tʃʰiu^{3}と再構でき、中国語史上においても一貫して“手”が用いられている、このような単純なケースは例外と言ってよい。そのため現在、その研究目標を語源辞典編纂ではなく、より包括的な語彙史研究とした上で再構築するのが望ましいと思うに至っている。語彙数も40語から63語に増やすことができる見込みも立っている。書名は『閩東区方言人体詞演変史研究（閩東区方言における身体名称語の歴史的研究)』を考えている

なお、当初十分に認識していなかったことであるが、北部の閩東区方言は、移民が閩東地区に持ち込んだ閩南区方言の影響をとりわけ語彙面において強く受けている。そのため、これらの閩南区方言のデータがないと、語彙変化過程の推定がしがたいケースが多々あった。今後、その閩南区方言を調査する必要が出てくると思う。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計6件（うち査読付論文　5件／うち国際共著　5件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 秋谷裕幸	４．巻 12
２．論文標題 びん東区方言的“嘴”義詞及其相関的詞語	５．発行年 2018年
３．雑誌名 歴史語言学研究	６．最初と最後の頁 245-261
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

１．著者名 秋谷裕幸	４．巻 21
２．論文標題 びん東区方言的“肚子”和“肚臍”	５．発行年 2018年
３．雑誌名 語言研究集刊	６．最初と最後の頁 510-520
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

１．著者名 秋谷裕幸	４．巻 39-3
２．論文標題 びん東区方言的“bo子”義詞語	５．発行年 2019年
３．雑誌名 語言研究	６．最初と最後の頁 60-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

１．著者名 秋谷裕幸	４．巻 17
２．論文標題 編纂漢語方言比較詞典的設想――以《びん東区方言比較詞典》為例	５．発行年 2017年
３．雑誌名 語言研究集刊	６．最初と最後の頁 115-134
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 秋谷裕幸	4．巻 37
2．論文標題 びん東区方言的｛手指｝義詞及其相関的詞語	5．発行年 2019年
3．雑誌名 開篇	6．最初と最後の頁 510-520
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 秋谷裕幸	4．巻 -
2．論文標題 びん東区方言的“屁股”義詞及其相関的詞語	5．発行年 2020年
3．雑誌名 語言学論叢	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕　計7件（うち招待講演　1件／うち国際学会　5件）

1．発表者名 秋谷裕幸
2．発表標題 びん語的{胎盤}義詞
3．学会等名 第十二屆臺灣語言及其教學國際學術研討會（国立中山大学）（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2018年

1．発表者名 秋谷裕幸
2．発表標題 びん東区方言的｛男陰｝義詞及其相関的詞語
3．学会等名 漢語方言比較和地理研究論壇（国際学会）
4．発表年 2018年

１．発表者名 秋谷裕幸
２．発表標題 びん東区方言的“肚子”和“肚臍”
３．学会等名 日本中国語学会第67回全国大会（中央大学多摩キャンパス）
４．発表年 2017年

１．発表者名 秋谷裕幸
２．発表標題 びん東区方言的“bo子”義詞語
３．学会等名 日本中国語学会第65回全国大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 秋谷裕幸
２．発表標題 びん東片的“嘴”及其相関的詞語
３．学会等名 第二届漢語方言中青年国際高端論壇（安徽師範大学）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 秋谷裕幸
２．発表標題 びん東区方言的｛眼睛｝義詞及其相関的詞語
３．学会等名 第三届漢語方言中青年国際高端論壇（復旦大学）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 秋谷裕幸
２．発表標題 びん東区方言中表示｛膝蓋｝的詞語
３．学会等名 The 27th Annual Conference of International Association of Chinese Linguistics（神戸市外国語大学）（国際学会）
４．発表年 2019年

〔図書〕　計1件

１．著者名 秋谷裕幸	４．発行年 2020年
２．出版社 上海教育出版社	５．総ページ数 -
３．書名 びん東四県市方言調査研究	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考